

大豆狭畦栽培における帰化アサガオ防除は、茎葉処理剤散布で可能となる

富山農総セ・農業研究所・栽培課

アサガオ防除の課題

● 慣行栽培の防除体系

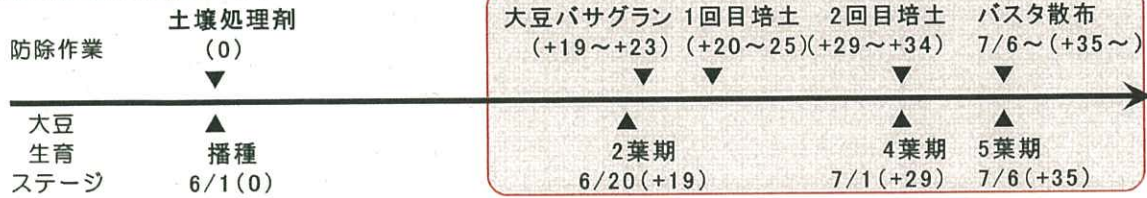


図1 大豆ほ場での帰化アサガオ防除体系のイメージ

● 課題

- ① 短期間に4回の作業(培土と茎葉処理剤散布)が必要。
→ **より省力化**
- ② 株間にアサガオが残草する事例が見られる。
→ **より効果的に**

アサガオに対する遮光に優れる狭畦栽培を導入した省力的な防除体系を確立する

狭畦栽培の高い防除効果

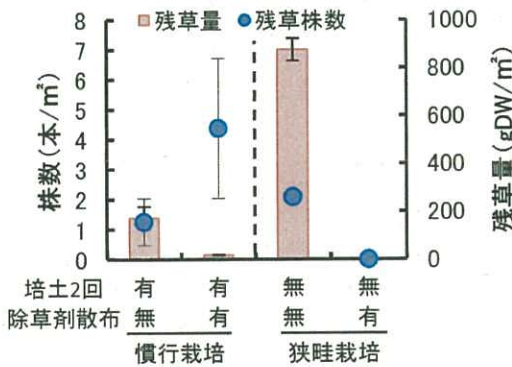


図2 現地ほ場における成熟期の帰化アサガオ雑草量(2015)

慣行栽培の防除
大豆バサグラン液剤
培土×2回
パスタ液剤

狭畦栽培にすると、
・防除効果は、同等
・作業は、省力化

狭畦栽培の防除
大豆バサグラン液剤
パスタ液剤

狭畦栽培の導入により
効果的で省力的な防除ができる！

- ・ 収量、品質および作業性の向上が可能
- ・ 作業の省力化により適期作業が可能

なぜ、狭畦栽培で高い防除効果が可能？

株間の効果的な防除

狭畦栽培では、葉の分布に偏りが小さい。

↓ 株間でも、地表面がよく見える。

株元に発生するアサガオに大豆バサグラン液剤が付着しやすい。

↓ 効果的・効率的に防除が可能。

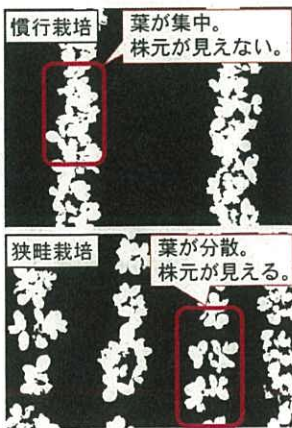


図4 群落の被覆状(2016)

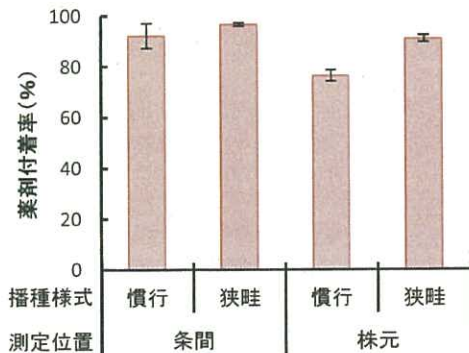


図5 大豆バサグラン液剤散布時における薬剤付着率の関係(2016)

遮光によりアサガオを生育抑制

狭畦栽培では、群落地表面の照度が早く低下。

↓ 生育初期から遮光によるアサガオの生育抑制が可能。

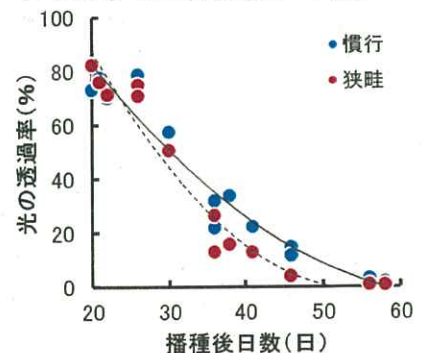


図3 群落地表面の光の透過率の推移(2014~2016)

注) 栽植密度 14株/m²(図4、5も同じ)